



<http://www.afs.or.jp/>

2004 Spring
エイ・エフ・エス ニュース

NO.118

発行人 財団法人エイ・エフ・エス日本協会
事務局長 大山 守雄
編集長 広報担当 河野 淳子
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-16 2F
☎ 03-3357-5831 ☎ 03-3357-5841
✉ info@afs.or.jp

AFS NEWS

【ASEAN-Japanジュニアサミット2003報告】
違いがあるから楽しい

【50周年事業】
ホームカミングを実現しよう!

(帰国生体験記)
「自分の中で何かが変わった」

(ホストファミリー体験記)
レオと暮らした日々

学生ボランティアの活動と魅力

「YOSHI基金」10回生が
クリントン前大統領と対面



AFS日本協会50周年

記念式典・イベントへの参加申し込み受付中!

国際理事2期目を迎えて

AFS国際本部 理事 高田 祐三(YP19期)



昨年秋のパートナー(AFSプログラムの参加国)による選挙の結果、国際理事として2期目の再選を果たしました。ご支援をいただきました日本協会の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

AFSネットワークは、現在49カ国・地域のパートナーと国際本部(国際理事会と国際事務局)から構成されます。全世界で、現在リターニー数は30万人、10万人のボランティアに支えられ、毎年1万人の留学生を異文化体験に送り出している世界有数の民間留学生団体です。国際理事会は、企業の取締役会にあたるもので、ネットワークの最高決議機関です。6人の終身理事(第二次大戦当時の救急車のドライバー)と18人の期間理事(3年任期)で構成され、期間理事は毎年6人ずつ選挙で改選されます。現在、アジアからの理事は日本とマレーシアからの2名。ネットワークにおける多様性を確保し、多くの異なる

価値観を反映させるためにも、アジアの参加を強化していく必要性を感じています。

今、ネットワークは変革の時を迎えています。昨年末で国際本部のポール・シェイ会長が退任し、現在新しい会長を選任中です。また、「異文化教育におけるリーダー」たることを定義するAFSの「目的」を明確化する作業が、今年10月の世界会議(日本で開催)での採択に向けて現在最終段階です。ネットワークは今、AFS活動の最大の課題を「財政的裏付けに基づいた、質を伴う規模の拡大」に置いています。それは、テロと戦争に脅かされ、混迷を深める世界情勢のなかで、AFSの果たすべき役割がますます重要になってきているという認識に基づきます。相互依存によって成り立つネットワークのなかで日本協会に対する期待は大きく、日本協会が今後ともさらに重要な役割を果たしていけることを切に願っています。

「気持ちを通じ合う組織づくり」をテーマに 2004年度全国代表者会議開催

地域活動委員会 委員長 花輪 宗命(東京多摩支部長 / YP10期)

去る2月14・15の両日、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、全国代表者会議が開かれました。一昨年、この会議を1年おきに開催することを決めため、2年ぶりに全国のボランティアが一堂に会する機会となりました。北は北海道から南は鹿児島まで、67支部(設立準備中のものを含む)および

学生部を代表する75名の他、垂水理事長はじめ理事会・各委員会のメンバー、国際本部の高田理事・リベロス氏、そして日本協会事務局職員も含め100名を超える大会となりました。

AFS日本協会は、この会議に代表された全国各地の支部ボランティアに支えられて、今年、設立50周年を迎えます。しかしこの間(特に近年)の社会経済状況の変化は、今日のAFSのように大きくなった組織にとっては、柔軟で機動的な対応を難しくさせる、さまざまな問題をもたらしています。

このことを踏まえ、今回の全国代表者

会議は、「新しい日本協会を目指して～気持ちを通じ合う組織づくり～」をテーマにしました。今回初めて参加した代表者からこの道何十年のベテラン・ボランティアまでが、さまざまな角度から、直接ひざを交えて意見を交換できる絶好の機会となりました。今回の代表者会議の大きな

特色は、日ごろ地域でボランティア活動に没頭している時にはなかなか見えにくい日本協会本部での意思決定や、国際本部での取り組みについて、関係者と直接話し、理解することができたことです。遠い存在に思えた「本部」も、実は地域と同じようなボランティアが、同じような問題に悩みながらも、信念と理想をもって日々真剣に取り組んでいたのだという、ごく当たり前の事実が確認できました。代表者の方々が地域に戻り、今回の会議で得られた感慨と元気を、日々のボランティア仲間に伝えていってくださることを切に望みます。



▲全体会で垂水理事長の話に耳を傾ける参加者たち



▲分科会では活発な意見が飛び交った

▼会場ロビーに所狭しと並べられた各国紹介の展示物



協賛:アサヒビール株式会社、アサヒ飲料株式会社

違いがあるから楽しい

ASEAN-Japanジュニアサミット2003報告

(日・ASEAN連帯基金事業)

昨年の12月24日、ゆずの『また あえる日まで』の曲が流れるなか、オリンピック記念青少年総合センターの大ホールは、ミャンマーを除くアセアン9カ国および日本人高校生の熱気にあふれた。外務省所管の日・ASEAN連帯基金により、2003年を「日本アセアン交流年」とする記念行事の一環として、「ASEAN-Japanジュニアサミット～アジアから未来の世界へ～」がAFS日本協会によって実施された。このサミットは、日本とASEAN諸国の将来のリーダーとなるような人たちの育成を目指して2001年から開催されており、AFS日本協会が実施にあたっている。

ブルネイ、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ベトナム、カンボジア、ラオス、フィリピン、タイから来日した各国7名、計63名の高校生たちは、12月2日から日本各地でホームステイをしながら2週間



▲壇上上がった103名の高校生たち

の高校生活を体験した。日本人は、7月25日から8月21日にかけて、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン各国10名でホームステイしながら高校に通学し、自ら定めた課題学習を行い、日本との交流活動などを視察した合計40名の高校生である。ジュニアサミットは両者の総括の場といえよう。

サミットはYP30期生、NHKアナウンサーの廣田 直敬氏の総合司会で始められた。外務省からYP14期の門司 健次郎氏が来賓としてあいさつされたなかで、YP4期生である川口外務大臣の歓迎の言葉を伝え、また、人と人との交流から相互の信頼や尊重、互いの伝統や価値観に対する理解を生み、地球規模問題への対応には広範な国の間の積極的な協力が必要であること、そして日本とASEANの協力が、東アジアにとどまらず国際社会全体の安定と繁栄に貢献する主体となることを述べられた。プログラムは、華やかに着飾った高校生たちのパフォーマンスへと続き、民族衣装や踊りなどを披露するなかで自国の文化を紹介した。なかでも、シンガポールは一つの曲に中国やマレー系、インド系に日本の炭鉱節まで取り入れたダンスを披露して、その国らしい多様性の一体化に会場を沸かせた。ベトナムやカンボジアの女生徒た

ちの、指を見事に反らせた優雅な踊りは子どものころから習っている成果だという。長年の戦禍に見舞われながらも、伝統文化が着実に若者にも受け継がれていることが伺われる。

プログラムの第2部では、YP17期生であり、桜美林大学教授の馬越 恵美子氏(写真右)がファシリテーターとして、「留学を通じて学んだ僕たち・私たちのコミュニケーション」をテーマとする代表発表と、会場も参加するパネルディスカッションが行われた。柴田 さやかさんはインドネシアで、



▲パネルディスカッションの様子

ドラえもんの歌に目を輝かす子どもたちにコミュニケーションの糸口を見つけた。ベトナムのグエン・トゥ・ハーさんは熊本への飛行機に酔って口もきけなかったが、ホストファーザーの笑顔と無言で握ってくれた手から心のぬくもりを感じた。山下 みなみさんは口論の結果、タイと日本の違いに気づいた。ブルネイのカイさんは異文化間の理解には非言語的な部分での理解も重要だと述べた。

LとRの区別のないタイやラオス、日本では英語は難しいと捉えられているが、英語の達人なシンガポールなどの国では英語に地獄的ななまりがあるという。異文化間コミュニケーションの達人になるには、好奇心や学習意欲をもち、違いを認める柔軟性と相手を受け入れる寛大さをもつことが必要だと、どこの国も主張した。「違いがあるから楽しく、違いがあるから美しさが映えるのだ」とインドネシアのリッキーさんは最後をくくった。

“出会えたことを忘れはしない また会える日まで”と会場は一体になって熱唱した。(仙名 怜子 YP2期)



各国の高校生が入り乱れて熱唱▶



AFS日本協会50周年

50周年記念事業の意義

50周年記念事業は、50周年の節目を機会に、AFS体験を分かち合った人々が、AFSのミッションを再確認し、AFSをもっと広く世の中の人々に認知してもらい、これからの50年を支える参加者、支援者を増やすことを目的とします。

一人でも多くのAFS体験者(リターナー、ホストファミリー、ホストスクール、学生・社会人ボランティア、その他AFSにかかわってきたすべての人々)に何らかの形で心新たにAFSを見直し

ていただき、また、今まで全くかわりなかった多くの一般の方々、社会人、学生の皆さんに、これを機にAFS体験を共有していただくことで、未来に向けてAFSの活動を維持し、さらに進展させる起爆剤としたいと考えて、本事業を企画・実施致します。50周年を機会に、AFS体験で得た友人、ホストファミリー、世界、ものの見方、平和への願いなどを、これからの人たちにも伝えていこうではありませんか!

募金のお願い

以下2種類の募金を行っています。温かいご支援をよろしくお願い致します。

《2004年記念事業費》

今年実施されるさまざまな50周年記念行事のため
(下記のいずれかの方法でお願いします)

- ①郵便振替口座：00130-4-443749
加入者名：50周年記念事業
- ②インターネットバンキングなど銀行振込のご要望が多く
2004年3月18日より新設しました。

振込先：UFJ銀行新宿支店
口座番号：普通 1165339
名義人：財団法人エイ・エフ・エス日本協会
50周年記念事業口座2004
理事長 垂水 公正

《奨学金制度》

来年以降実施を計画しているAFS奨学金制度の基金設立のため

- ①自動振替による継続的寄付
専用申込書をお送り致しますので募金部会までご連絡ください。
- ②多くのご要望を受け、継続寄付のみならず、50周年を記念しての1回限りの寄付制度を2004年3月18日より新たにスタートしました。

振込先：UFJ銀行新宿支店
口座番号：普通 1165321
名義人：財団法人エイ・エフ・エス日本協会
50周年記念奨学金口座2004
理事長 垂水 公正

振込手数料はお振込人さまのご負担でお願い致します。

銀行口座にお振込みの場合、振込人氏名の前に必ず会員番号(03-/04-で始まる番号、封筒に記載)を記入し、メールもしくはFAXにて氏名、住所、電話番号、AFSとの関係(ホストファミリー、リターナー、ボランティアなど)を募金部会までお知らせください。

募金部会：e-mail 50fund@afs.or.jp FAX：03-5919-1258

》記念行事のお知らせ

横浜・大榎橋ホールでのメインイベントのご案内(10月10日)
お知らせと申込書を同封しました。一人でも多くのご参加をお待ちしています。

北海道でも...(9月中旬、札幌にて)

北海道地域では、これからのさらなる前進を願い、50周年記念行事を札幌で行います。来日中の道内留学生の小学校訪問による手づくり国際交流や、同地域に関係のある皆さまにお声をかけて楽しく懇親を深める集いなどを計画しています。北の大地から祝いの輪をスタートさせようと、10月の横浜での開催に先立つ9月中旬を目標に、

現在準備中です。

お問い合わせ:03-5919-1257 e-mail:y-masaki@afs.or.jp

》3日間のホストファミリーをお願いします!

ホームステイ部会では、50周年記念事業に参加する世界各国からのゲスト150名のためのホームステイ先を募集していますが、2月末までに50件近くの方々から、ご応募いただきました。大半が元ホストファミリーの方と、お子さまを留学させた保護者の方々です。それと同時に、世界各国からは、ホームステイの希望が続々と来ています。リターナーの皆さん、ぜひこの機会に、数日のお宿を提供して、懐かしい留学先の代表の方たちと語り合ってみませんか。お知り合いも

50周年記念事業実行委員会事務局

電話 : 03-5919-1257
 FAX : 03-5919-1258
 E-mail : 50jimu@afs.or.jp
 URL : http://www.afs.or.jp/50a/

ホームカミングを実現しよう!

日本におけるAFS活動が始まって、今年で50年。毎年、日本の各地で留学生にとって、ホストファミリーにとって、そしてそれを支えてきたボランティアにとって、忘れられないドラマが刻まれてきました。50周年という節目の機会に、かつての留学生に里帰りを呼びかけ、楽しかった、あるいは大変だったあのころを思い起こし、懐かしい顔ぶれが一同に会する機会をもてたら、どんなに素晴らしいことでしょう。そんな思いから、私たちは、かつての留学生たちに、“Home Coming”を呼びかけたいと思っています。呼びかけの手紙も用意しました。札幌の葛西さんのように、もう既に里帰りを實現し、感激を新たにされた人も大勢います。ホームカミングを實現して、それぞれの50周年を、特別な機会にしませんか?

おかえりなさい、マティーナ

葛西 恵美子(札幌支部)

駅で会うなり「ただいま」と抱きついてきたマティーナの後ろで、おばあちゃんのテレサが微笑んでいました。3年前も同じ光景でした。その時はお母さんのジョアンナと一緒にだったのですが、マティーナがAFS生として我が家にいたのは1999年～2000年。全員授業をさぼって、大きな横断幕を広げて空港で見送ってくれた2年1組に「卒業式には必ず来るからね」と約束してオーストラリアに帰ったのでした。そして一年後、

その同級生の卒業式に、お母さんと一緒に列席したのです。一週間の滞在で、ジョアンナと私たち夫婦はすっかり友達になり、その年の秋に私たちがメルボルンのマティーナの家に招待され、1週間泊まって早春のビクトリア地方を楽しみました。

70歳のおばあちゃんに大好きな北海道を見せたかったという2度目のホームカミングは、マティーナにとっても私にとっても、本当に充実した1週間でした。一緒に「雪まつり」に行ったり、温泉を楽しんだり、学校訪問では、懐かしい先生方が次々と談話室に会いに来てくださったり、VIP並みに歓待された場面もあったり…。

ある日、「今日は私ひとりで新札幌(かつて学校の帰りにいつも寄り道していた彼女の一番好きな商店街)をぶらぶらしたいから、お母さんにおばあちゃんをお願いしてもいい?」そう言って甘えてくれたマティーナは、5年前と同じ「私の娘」でした。

(オーストラリアに)まだ行きたくないと言いながら、おばあちゃんを気遣いつつ搭乗口に消えたマティーナ。今度「ただいま」と帰って来るのはいつかしら。孫も含めて我が家全員で食卓を囲むたびに「(私の)家族だね」と言った声が耳に残っています。

▶2001年1月、母ジョアンナ(右)と訪れたマティーナ(中央)。齋藤札幌支部長(左)と共に



◀2004年2月、祖母テレサ(前列左)と訪れ。葛西ご夫妻と共に

ご紹介ください。
 そして、元ホストファミリーの皆さま、またのご協力をお願い致します。
 ホームステイ部会:e-mail 50home@afs.or.jp

【ホストファミリーの条件】

- ①期間:10月9日より3泊
- ②地域:横浜の50周年記念イベント会場に近い方
- ③滞在費及び滞在中の食事などは、すべてボランティアでお願いします。

»広報部会から

広報部会では、AFSの知名度を上げるべくさまざまな企画を立案中ですが、その一つに世界各国の在日AFSリターナーの組織化があります。仕事や勉強のため、日本へ来ている世界各国のAFSリターナーたちも50周年の記念事業にご参加いただくと同時に、AFS活動にも広くご参加いただきたく、現在呼びかけを行っています。日本在住の各国AFSリターナーをご存知の方は、その方の連絡先を事務局(上記)までお知らせ下さい。よろしく願い致します。

50周年事業のホームページを開設しました。ぜひご覧ください。
<http://www.afs.or.jp/50a/>



帰国生体験記

「自分の中で何かが変わった」

岩本 康隆 (Y.P. 50期 パナマ)

パナマに旅立とうとしていた1年前の自分を思い出す。発展途上国、物が乏しい、運河...僕のパナマのイメージといえばそんなものだった。ところが、いざ着いてみてビックリ。なんという建物の多さ。片側三車線の道路まである。しかも、首都パナマ市には、ニューヨーク並みの高層ビルが立ち並ぶ新市街と、歴史を感じさせる旧市街とが、湾をはさんで同居しているのだ。これはまさに「美」だった。

最初にぶつかったのは言葉の壁。人と交わらずに部屋に閉じこもって文法書ばかり見ていた僕に、「お前は読み書きだけでできれば、話せなくていいのか?」と会話の重要性に気づかせてくれたのは、当時のホストファーザーだった。

学校も問題だった。初日から担任に「なんでここにいるんだ?」と聞かれた。パナマは多人種で、しかも混血の進んだ国なので、僕が海外からの留学生であることは容易には気づかれなかった。留学生として特別待遇されるかな? という甘い期待は裏切られた。

さて、その後まもなく、僕は最初の家庭の事情でファミリーチェンジをすることになった。次の家庭は街の中心部で薬局を営んでいた。環境が変わったことで、僕は以前よりもずっと前向きに考えられるようになり、何にでも挑戦したいと思うようになっていた。地域の野球リーグや、伝統舞踊

のサークルに入った。学校では吹奏楽部で太鼓のたたき方を覚え、家では薬局の手伝いをした。世界中をまわらなければ会いつくせないほどの友達ができ、僕

はとても充実した生活を送っていると思っていた。ところが、そうしたある日、僕はささいなことからホストマザーと大げんかになった。互いの考えをぶつけ合うこと2時間、ついには2人とも泣くまでに至り、そこで僕はようやく大切なことに気づいた。今まで僕は、すべてわかったつもりで生活していたが、実際には家族の声が全く聞こえていなかったのだ。この上なく有意義な2時間だった。なぜならそこからパナマの真相が次第にわかり始めたからだ。自分の中で何かが変わった。

その後の留學生生活は本当の意味で充実していた。体験の最後のころ、AFSパナマが「新聞紙による衣装コンテスト」と「手づくりの帽子コンテスト」を行ったが、僕は侍をモデルにした衣装と兜をつくって2位に入賞した。忘れられない思い出となった。

帰国の日がやってきた。僕は「パナマでのことは貴重な思い出としてここに置いておこう」と心に決め、涙はこらえていた。しかし、さすがに飛行機から第二の祖国が離れていくのが見えた時には、ジンときてしまった。

日本に帰国した今、僕はまるで異国にいるようだ。目に入るものは新しく、人とどう接してよいかわからない。しかし、きっと時間が解決してくれるだろう。

僕はこの留学で、自分が大きく変わったと思っている。パナマでの生活は最初は壁ばかりだった。しかし、僕はそれを乗り越え、本当の家族や友人と思える関係を築くことができた。苦勞した結果ついに成し遂げたという充実感でいっぱいだ。僕を支えてくれた周囲の人々に心から感謝したい。パナマと日本の家族や友人、わが母校久留米大附設高校の先生方、先輩方、そしてAFS、本当にありがとうございました!



AFS主催の旅行で訪れたカリブ海の島で。
スイス、ニュージーランド、タイのAFS生たちと(昨年5月)

AFS日本協会50周年記念! 2004年夏の地域主催

① 親睦交流キャンプ

- ② 帯広支部
- ③ 北海道清水町 フロイデコテージ
- ④ 7月31日~8月1日(1泊2日)
- ⑤ AFS活動に興味のある方
- ⑥ 3,000円(予定)
- ⑦ 石田 靖雄 ☎0155-48-8533

① AFSみちのくサマーキャンプ

- ② 盛岡支部
- ③ 岩手県大東町「大東ふるさと分校」
- ④ 7月29日~31日(2泊3日)
- ⑤ 中学3年生~高校2年生
- ⑥ 10,000円
- ⑦ 盛岡支部 ☎FAX:019-697-7565
久保 健俊 ☎019-562-3338

① 2004年度 AFSインターナショナル キャンプin君津

- ② 東京支部、東京多摩支部、京葉支部、
埼玉支部共催
- ③ 千葉県君津市
君津亀山少年自然の家
- ④ 8月9日~13日(4泊5日)
- ⑤ 高校就学年齢者
- ⑥ 30,000円
- ⑦ 君津キャンプ2004実行委員会
☎03-3357-5842
e-mail:kimitsu2004@afs.or.jp

① フジサマーキャンプ2004

- ② 神奈川支部
- ③ 国立中央青年の家「富士のさと」(静岡県御殿場市)
- ④ 2004年8月8日~11日(3泊4日)
- ⑤ 高校就学年齢者
- ⑥ 24,000円
- ⑦ 神奈川支部長 仲村 邦子
☎FAX:045-413-1765 または
e-mail:fuji-summer-camp@afs.or.jp

ホストファミリー体験記



岸本尚巳(京都支部ホストファミリー)

レオと暮らした日々

初めてレオがうちに来たのは、スモモの花が満開の2003年3月の終わりです。南米、パラグアイ共和国...書類が届いたときは、「どこにある?」と早速、世界地図を買いに行きました。とにかくレオとは1年近く一緒に暮らすわけです。書類の顔写真はアフロヘアのいかついもので、え、え、え~という感じでしたから、京都駅で出会ったときはびっくりしました。短い髪、小さい顔! 華奢な子という印象でした。髪はアーミーサービスのために切ったそうです。ああそうなんだ。日本にはないので忘れていましたが、彼らは軍隊を経験するのです。

ともかく新しい生活の始まりです。我が家は、夫、私、痴呆症の姑の3人と猫、犬、鶏の大家族です。そこにレオが加わったのです。レオはスペイン語と英語を話しますが、日本語は2ヵ月ほど勉強した程度です。私も夫も日本語以外は使えません。でも、「ことばが通じない」点だけ見れば、痴呆の姑も、猫も犬もみな同じ! やって見なければ、できるかできないかわかりません。人生はエキスポリエンス! レオも体験をするために、はるばると来たのですから。私は、①この子がファミリーチェンジしたいと言わない限り、私からは絶対しない。②この子が今までできなかったことを経験させよう。この2つをテーマにしました。パラグアイは海がない、暑い国ですから雪を知らない、山もない...。結果、テーマ②は全部楽しむことができました。

最初はお互いに様子を見ながらのスタートです。レオは何でも食べましたが、3ヵ月くらいすると、朝ごはんはいらぬとか、味噌汁を飲まない、1週間に1日何も食べない日をつくるなど、変な健康管理をしだしたり、宿題をしないう、英語の話せる人としが付き合わない、私たちとも必要最低限

のことで、1日中ギターを弾いている毎日が続きました。その頃、英語を話せる方との出会いがあり、その方の家でご飯をいただきながら、ここで泊まると電話をしてみましたので、帰らせてくださいとその方に頼みましたら、レオは顔色を変えて帰宅し、「おかーさんはちょっと〜(...おかしい)」と、談判を始めました。こんなに日本語が話せるならいつも話してよ...と、言いたいほどでしたが、そんな場合じゃありません! ここで引いては駄目、と一生懸命繰り返し応戦しました。レオは、その方に電話をして確かめたり、すごいエネルギーでしたが、とうとう「おかーさん、ごめんなさい。レオが悪い」と言ってくれました。(中略)

子どもがいればこそその楽しさと、子どもが味わう悲しみを見ていなければならない親のつらさを、留学生と暮らすことでたくさん経験させてもらいました。レオ(私たちの最初の子ども)が私を「親」にしてくれましたので、今年は同居でない11名を含む家族4人で、新しく来る留学生をお世話させていただきます。世界中に子どもがいて、いつの日かその子どもたちを訪ね歩く、老後の楽しみまでできました。誰かのためにしたと思っていても、それは自分にとってもよいことで、そして、世界平和という大きな目的のお手伝いできているように思えます。これからも、どうぞよろしくお願いします。



レオの誕生日に岸本ご夫妻と。レオが手にしているのはパラグアイの民族楽器アルパ。アルパ演奏家との出会いがあり、昨年秋にはレオのギターとアルパでコンサートを開いた

中略の部分を含む全文は、AFS日本協会ホームページの「ホストファミリー体験談」(http://www.afs.or.jp/r_program/taikendan/)上でご覧いただけます。

キャンプ・セミナーのお知らせ

①行事名 ②主催支部 ③開催場所 ④実施日 ⑤参加対象 ⑥参加費 ⑦問い合わせ先

① 高校生のための国際理解セミナー

- ② 新潟支部
- ③ 新潟市万代市民会館など
- ④ 7月17・18・19日の3日間
- ⑤ 高校生
- ⑥ 1,000円(その他 調理用食材実費負担)
- ⑦ 小池 泰子 ☎025-231-4185
FAX:025-231-4180
e-mail:y-koike@afs.or.jp

① 東海国際交流キャンプ

- ② 名古屋学生部
- ③ 岐阜県郡上市美並町
- ④ 8月3日~6日(3泊4日)
- ⑤ 中部地区在住の中学3年生~高校3年生
- ⑥ 25,000円(現地集合は20,000円)
- ⑦ 名古屋事務所 ☎052-807-7338
e-mail:info-nagoya@afs.or.jp

① インターナショナルサマーキャンプ'04

- ② 関西支部
- ③ 奈良県曽爾高原
国立曽爾少年自然の家
- ④ 8月9日~12日(3泊4日)
- ⑤ 中学3年生~高校3年生
- ⑥ 22,000円(予定)
- ⑦ AFS関西支部サマーキャンプ係
土佐 好史 ☎090-5259-0950
e-mail:kansai@afs.or.jp

① インターナショナルサマーキャンプ 京都2004

- ② 京都支部
- ③ 滋賀県甲賀郡甲西町
青少年自然道場
- ④ 2004年8月10日~13日
- ⑤ 中学3年生~高校3年生
- ⑥ 22,000円
- ⑦ 藤原 佳代 ☎FAX:075-464-9388/
090-3944-0125(携)
e-mail:afs_camp04@hotmail.com

クローズアップボランティア活動

学生ボランティアの活動と魅力

東京学生部 中瀬 陽介(YP46期)

東京学生部では

東京学生部は、東日本事務所に所属する学生ボランティアの組織です。派遣生のオリエンテーションの企画・運営を行う派遣部、留学生来日時のオリエンテーションの企画・運営や帰国時のサポートを行う受入部、留学体験発表会の企画・運営・広報やAFSグッズのデザイン・販売を行う広報部の3つの部があります。

各々は、定期的にミーティングをして、よりよい活動を行うためにどうすべきかを真剣に熱く話し合います。イベントごとに学生責任者を立てて少人数のコミッティーを結成し、イベントが終わると反省会をして次回に何をどう生かせるかを話し合います。学生は社会人ボランティアと違い、毎年メンバー交代を余儀なくされるため、個人の経験の蓄積よりも、いかに経験を引き継ぐかが組織としてとても重要になるのです。

メンバーは、リターニーだけではなく、支部キャンプの参加者やその兄弟、姉妹、ホストファミリー、友達など、さまざまな人たちがいて、支部活動とかけもちをしながら学生の持ち味を生かして活動しています。AFS活動全般にどっぷりはまっている人、イベントの時だけ参加する人と、かかわり方もさまざまです。

魅力は「人とのつながり」

学生ボランティアの組織は、東京の他にも名古屋、大阪、福岡にあり、それぞれの地域事務所と密接にかかわりながら活動を行っています。ボランティアの“volunt”という用語は「自由意志」という意味で、強制的でなく自発的な、自ら進んで行う行為のことを指します(ジーニアス英和辞典)が、学生ボランティアの活動にも、まさに学生が自由意志で参加したくなる大きな魅力があります。留学生や派遣生とかわるなかで、リターニーは自分の留学体験と向き合い、新たな発見をし、またそれを生かすことができます。またリターニーでなくともAFS体験を日本にいながらにすることができます。留学生や派遣生だけでなく、同じ学生ボランティアの仲間たち、そして一緒に活動する事務所の職員や社会人ボランティアの方々との出会いもあります。AFSにかかわるそうした人々とのつながりは、AFS活動の魅力であり、学生ボランティアを引きつける大きな力になっています。



派遣部会の様子

東京学生部 広報部より

当部では、毎月ミーティングを重ね、新しいAFSグッズを考案したり、注文してくださった方々への発送を行っています。4月から国立青少年総合センター(東京・代々木)で月1回行われる留学体験発表会を企画・運営しているのも当部会です。

AFSグッズは、私たちボランティアのアイデアから生まれたものです。多くの高校生、留学生、リターニーの方々にAFSの1年をより思い出深いものにしてほしい、このグッズを通して新たな思い出づくりをしてほしい、との願いを込めて製作しています。

売上金は、すべてAFSのために使われます。少しでも多くAFSに還元したい、そんな思いから、発送代や振込手数料はご購入者負担をお願いしています。

AFSのために何かしたいと思っても、大きい額の寄付はちょっと...と躊躇してしまう方、ちょっとしたチャリティ一気分でAFSグッズをご購入なさいませんか?

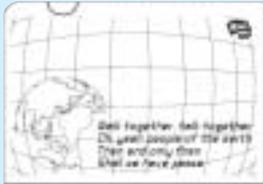
ご注文は goodsorder@afs.or.jp まで

ピンバッジ



シルバーの地に白・赤・青の配色です

クリアファイル



透明の地にイラスト・文字は青で描かれています



BACKプリント



Tシャツ
FRONT
BACK

濃紺の地にイラストは白、桜の花はピンクで描かれています。FRONTプリントはAFSのロゴです。

Tシャツ(サイズS・M・L)	全サイズとも1枚 / 2,000円		
ピンバッジ	1個 / 250円	5個 / 1,000円	
クリアファイル	1枚 / 150円	5枚 / 600円	10枚 / 1,000円

*送料はご負担いただきます。

「YOSHI基金」10回生が クリントン前大統領と対面

服部 美恵子(YP39期 故 服部 剛丈くんの保護者)

11年前、AFS交換留学生だった息子の剛丈よしひろ(当時16歳)は、米国ルイジアナ州バトンルーージュ市に滞在中、ハロウィーンパーティーの会場を間違えたばかりに家主に射殺されました。(この経過はビデオ「世界に轟いた銃声」をごらんください。)その後1993年、私たち夫婦は米国が銃規制を強化することを願い、日本からの声として170万人の署名を当時のクリントン大統領に直接提出しました。それは、米国で初めての連邦法「ブレディ法」の成立を後押しする形で実を結ぶことになりました。

1994年に剛丈の生命保険金を原資に設立した「YOSHI基金」では、AFSの支援と多くの皆様のご寄付を得て、毎年米国から高校生1名を1年間日本に招いています。日常生活に銃が存在しない暮らしの気安さを体験し、将来米国の銃社会のありかたを変えていく核になってもらえたらと強く願うからです。

昨年11月、10回生のサラとメーガンが、クリントン前大統領と愛知学院大学開学50周年記念講演会のレセプションで対面しました。私たち夫婦にとっては、10年ぶりの再会です。「銃規制の活動を続けていてくれてありがとう」というクリントン



▲左より板東 弘美さん「YOSHIの会」支援者、服部 美恵子さん、サラさん、クリントン前 米国大統領、メーガンさん、服部 政一さん

氏の言葉に、10年の重みと温かな励ましを感じました。サラもメーガンも緊張気味でしたが、生涯心に残る対面だったことは間違いありません。

服部ご夫妻は2002年、AFS国際本部から際立つ活動をしたボランティアに贈られる「ガラッティ賞」を日本人として初めて受賞しました。(AFSNEWS114号に関連記事)

財務委員会より

法人募金

マッチング・ギフトと法人サポート会員

マッチング・ギフト制度について

「マッチング・ギフト」とは、社員とその勤務先の企業が一体となって行う社会貢献の方法です。たとえば社員が、ある団体(通常は非営利の団体)に1万円の寄付をした場合、企業もその団体に対して1万円を寄付(マッチング)し、その団体には合計2万円が寄付されることになります。これにより企業は社員の寄付を支援し、増強することになります。この例では同額のマッチングなので比率は1:1ですが、企業によっては社員1に対して企業2としてダブルマッチングするところもあります。

寄付の対象は、国、地方公共団体、特定公益増進法人、NPOなどのうちから、企業があらかじめ指定し社員に知らせておきます。企業と社員の組織が相談して対象を選んでいるところもあります。企業は社員の社会貢献を促しながら、その活動に賛同し協力することで、社会貢献に対する企業の姿勢を内外に示すことができます。

1960年代に米国で始まり、次第に浸透して、現在1000社ほどの米企業に導入されています。日本では約40社が導入していると言われていますが、普及はこれからです。日本協会は現在3つの

企業からマッチング・ギフトを受けています。募金担当では、企業に寄付協力をお願いする時にマッチング・ギフト導入をご検討くださいという呼びかけも行っています。制度の導入がそのままAFSへの寄付に結びつくわけではありませんが、日本での社会貢献の裾野を広げる意味で、この制度の拡大に期待したいと思います。皆さまが勤務されている企業・団体にマッチング・ギフト制度が導入されていないかどうか、ぜひ確認していただきたいと思います。もし制度があれば、皆さまのご好意はAFSの事業に2倍あるいは3倍の貢献をもたらします。募金担当にもお知らせください。

法人サポート会員について

日本協会を継続的にご支援いただいている法人を、感謝の気持ちをこめて本年度の「応募のてびき」(YP52期生募集用)に掲載しました。実績のある法人、継続的なサポートを申し出ていただいた法人を「法人サポート会員」と呼び、できるだけ感謝の機会を設けてご好意を大切にしていきたいと考えます。

募金担当 畔柳 敏雄
t-kuroyanagi@afs.or.jp

電車の運転士という職業

AFSを知って3年。現在私は、友の会、広報委員会、50周年イベント企画などのお手伝いをしています。私の本業は電車の運転士。AFSにはいろいろな職業の方がいますが、電車の運転士は珍しい...というわけで、まずは私の職業紹介から。

子供の頃から「赤い特急電車の運転士」に憧れて東京のある私鉄に入社した私は、平成2年に免許を取り、5年に特急運転試験に合格。現在キャリア15年。

電車は全長200メートル、総重量500トン、最高時速100キロを超える巨大な乗り物。運転には加速用と制動用の2つのハンドルを使い、加速(力行)・惰行・制動の3つの操作を行います。あの有名な電車運転ゲームとまったく同じ方法ですが、実際には信号・標識・合図・保安装置・進路など、複数の確認と操作を同時に行いながら瞬時に判断しなくてはならないため、運転には高い集中力が要求されます。

ラッシュ時間帯は3500人以上のお客さまを乗せ、

秒単位で操縦するため、新人当初は緊張の連続。電車の形式が変わるだけでも大変なプレッシャーでした。新人は必ずといってよいほど会社の宿直室で「出発進行!」と寝言を言い、電車が停まらない夢や遅刻する夢を見て飛び起きます。

自宅では乗務する電車に遅刻しないよう、目覚ましを3カ所にセット。扱ったことがない作業はないか? 何時に出勤してどこを走るのか? あちゃー、新型に乗らなくちゃ...など就寝前に見直すのが今でも大切な習慣となっています。

運転士の仕事は大変ですが、お客さまの生命を預かり、子どもたちやファンの皆さまの夢を乗せて走る手応えのある仕事です。そんな私がAFSと出会って突然国際派に変身? 次回は「36歳の留学体験」というテーマでお伝えします。



▲AFSオフィスで国際派に変身(?)する濱崎運転士

(広告掲載部分)

AFS友の会

かわら版



「AFS友の会」事務局

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-16 2F
財団法人エイ・エフ・エス日本協会内
FAX: 03-3357-5841
E-mail: tomo@afs.or.jp

活動報告

新年会(1月24日)

東京都千代田区の如水会館で「AFS友の会新年会」が開催されました。友の会設立5周年を機により多くの人に参加していただけるように、今年は料金をおさえて昼食会とし、アトラクションもフィリピン民族舞踊と趣向を凝らしたおかげで、出席者80名のうち小さい子どもたちの姿も目立っていました。

東京外国語大学の山下 美知子先生(YP12期、フィリピン語の第一人者)と学生の皆さんによるフィリピン民族舞踊は、出席者一同がうっとりで見入るほど華麗で新年会に華を添えてくれました。もちろんお楽しみオークションも大好評。子どもたちが盛り上がり一役買う場面も。売り



フィリピンの民族舞踊を披露した学生の皆さんと

上げは全額AFS50周年記念事業に寄付されました。

友だち、知り合いと誘い合い、久しく語らう機会でもある新年会ですが、今年はさらに参加者の層が広がり、友の会設立5周年にふさわしい幕開けとなりました。

(小松崎 洋子 YP30期)

ネットワーキングの集い

「少年ジャンプアメリカへ行く」(3月1日)

集英社少年ジャンプ編集部で副編集長をつとめる佐々木 尚さん(YP26期)に、人気マンガ雑誌のアメリカ進出の背景についてお話いただきました。

「少年ジャンプ」が、アメリカで月刊誌として発行されたのは2002年12月のこと。「作家と苦闘してつくりあげた作品を、1人でも多くの人々に読んでほしい」という佐々木さんの編集者としての純粋な願いが実を結びました。

アメリカでの発刊以来、日本の「マンガ」は世界的なブームとなり、さまざまな国から引き合いが来るようになりました。また、「ジャンプに原稿をもって行くと、世界で読んでもらえるかもしれない」と、日本のマンガ家たちにも大きな夢と希望を与えました。



アメリカの書店のマンガコーナー。座り読んでいるのはアメリカの子供たち

日本のマンガを読んだ世界の若者が自分の作品を描き始め、外国人マンガ家が生まれる兆しも見え始めました。

「アメリカ版『SHONEN JUMP』で大ヒットしたアメリカ人マンガ家の作品を、日本の『少年ジャンプ』で紹介したい」佐々木さんは今後の抱負をこう語ります。「マンガ」が、日本発のグラフィック・ノベルとして世界で大きく確立されるまで、佐々木さんの多忙な日々は続きます。

(木納 律子 YP30期)

友の会行事のお知らせ

アド街っくオリエンティング 江ノ島(7月25日)

友の会夏休み特別企画として開催します。子どもから大人まで家族そろって湘南の人気スポット江ノ島へ集合!

ネットワーキングの集いに関するご意見を募集!

「こんなテーマで講演してほしい」「あの人の話をきいてみたい」「ゲストを推薦したい」など...ご連絡をお待ちしています。

インターナショナルバザーにご出品ください!

AFS50周年記念イベントに協賛して、友の会はバザーを開くことになりました。出品のご協力をお願い致します。売り上げはAFS50周年記念事業へ寄付します。

各行事に関するお問合せ・お申込みは「AFS友の会」事務局まで

皆様のご投稿、お待ちしております。(次回の締め切りは7月上旬) 紙面の都合でいただいた原稿をすべてご紹介できない場合もありますのでご了承ください。

MEMBERS' COLUMN

子どもたちの英語指導に長年かかわって

希望に胸を膨らませて氷川丸からシアトルに降り立ったのは45年前のことでした。

AFS交換留学生としてのアメリカでの経験は、その後の私の人生での礎となっています。子育てをする中で、国際理解の道具となる英語を子どもたちが好きになるにはどうしたらよいかを考えながら、入門期の英語指導に長年かかわってきました。そんななかでたどり着いたのがフォニックス・メソッドという音と文字の関係を体系的に教える方法でした。20数年前に、大学時代の仲間と共に、母国語が英語の国々で採用されている方法を日本人向けに直しワークブック「英語となかよし」をつくったのですが、最近その改訂版が関係社から出版されました。日本の子どもたちの自発的な英語学習をこれからも応援し続けたいと思っています。(桑田 ぶく子 YP6期)



84-85年の経験がなかったら...

20年前の1984年、初めて飛行機に乗り、初めて降り立った外国がアメリカだった。AFS生として1年間アメリカで過ごすことの意味や成果は、すぐにはわからないものだが、で、10年、20年とをフラチにいかし、かとの10年が「効いて」くる。初めて渡米した年から10年後の1994年に52年級、スタンフォード大学に留学した。AFSのオリエンテーションで滞在したキャンパスである。それからさらに約10年をたった2003年、初めて翻訳本「仕事の裏切り」ジョアン・キウラ著、翻訳を出版した。あの、84-85年の経験がなかったら、おそらく成し得なかった仕事である。5月には、ウイスコンシンから「アメリカの南緯」が発行する、ホストファーザーの大切な日本滞り献みながら、互い2020年を振り返って語りあうのが楽しみだ。

(中嶋 愛 YP31期)

宝飾職人への道

3

原田 隆雄

職人の未来

普段の生活で「1ミリ」という単位を気にする人はあまりいないでしょう。しかし、私たちの世界では、1ミリは大きな差です。

最初は10分の1ミリの精度を目指し、それが達成できるころには20分の1ミリを気にするようになり、それが達成できるころには...。職人の世界には「完璧」はありません。次々と目の前に壁が現れます。

手づくりの職人は、現在その人数が減っており、特に若い世代の人材不足は深刻です。作品を一つつくり上げるためには、多くの技術が必要となります。その技術を習得するためには、長い修行が必要です。

今後は、機械化が進み、パソコンと掘削の機械をつなぐだけでリングの原形をつくれる技術もかなり進歩してきたため、今以上に職人にとっては厳しい時代になる...と考えている人が多いようです。しかし、私は決してそうは思いません。機械でつくれば20分の1ミリも、100分の1ミリもすぐに越えられる壁でしょう。でも、「人の手でつくる」ということは、時代に関

係なく人の心を打つものだと思うからです。

私が現在持っている技術は、私一人のものではなく、代々受け継いだものです。長い時間をかけ、何世代もの間、多くの先輩職人たちが築いてきた技術を預かっていると考えています。この「預かった技術」を次の世代に伝えることも、職人の大切な仕事だと思っています。

PROFILE

原田隆雄 1971年東京生まれ。都立西高校時代にAFS35期生として米国ウィスコンシン州に留学。91年、日本ジュエリーアカデミー入学。92年、イタリア・フィレンツェに半年間滞在。現在は、オーダーメイドジュエリーのデザイン・制作を行う。



ジュエリー制作に使用する道具



「JAL ビジネス」は、JALグループから生まれた総合人材・オフィスサービス会社です。

JAL BUSINESS

JALビジネスへのお問い合わせは、

スタッフ登録 ☎0120-25-0639

人材派遣 ☎03-3459-0011

人材紹介 ☎03-3459-9821

株式会社 JALビジネス

<http://www.jalbusiness.co.jp/>

人材派遣事業(厚生労働大臣許可番号 般 13-04-0196) 人材紹介事業(厚生労働大臣許可番号 般 13-04-ユ-0329)

新 評議員会スタート

評議員の改選により、4月1日より新しい評議員会がスタートしました。新評議員はホームページ (<http://www.afs.or.jp/aboutus/yakuin>) をご覧ください。

3月末で退任された方々は次のとおりです(敬称略、五十音順)。ご協力に心より感謝申し上げます。
 圓入 佳子、岡崎 馨、岡田 隆、大工原 潤、高河 美智子、高崎 和美
 遠山 信彦、中瀬 陽介、中村 英子、平野 正彦、藤澤 秀敏、山 信彦

事務局より



AFS年間派遣プログラム第52期生(2005年派遣)募集

留学期間 2005年～2006年
留学先 34カ国・地域
対象 2004年4月時点で高等学校・高等専門学校・専修学校高等過程1・2年、中学3年に在籍している人
参加費 北米・オセアニア・ヨーロッパ118万円、アジア・中南米88万円

昨年から、従来の選考に加えて、「特別選抜」と「中学生選抜」を導入しています。両選考とも英検準2級以上(または同等)の英語力がある応募者のために実施する特別枠の試験で、高校生はすべての留学先が、中学生はアメリカのみが対象になります。各地で留学説明会を行っていますので、ぜひご参加ください。

詳細はホームページ (<http://www.afs.or.jp/>) をご覧ください。

選抜方法	高校生			中学生
	特別選抜	一般選考	支部推薦	中学生選抜
出願期間	4月1日～6月8日	6月9日～7月13日	4月1日～	6月9日～9月13日
試験日	6月19日～21日	7月25日	随時	9月23日～25日
試験会場	東京	全国20ヶ所	全国約60支部	東京
受験料	28,000円(第1回オリエンテーション参加費15,000円を含む)	18,000円	5,000円	28,000円(第1回オリエンテーション参加費15,000円を含む)
応募に必要な書類	申込書、学校長推薦書、英検準2級以上(またはそれと同等)の英語力を証明するもの	申込書、学校長推薦書	申込書、学校長推薦書	申込書、学校長推薦書、英検準2級以上(またはそれと同等)の英語力を証明するもの
試験内容	面接、グループディスカッション、一般常識	英語(英検3級以上は免除)、面接、グループディスカッション、一般常識	英語(英検3級以上は免除)、面接、グループディスカッション、一般常識	面接、グループディスカッション、一般常識
派遣対象国	すべての国	すべての国	中南米・アジア(および一般選考後欠員の出た国)	アメリカのみ
合格発表	7月7日(予定)	8月4日(予定)	随時	10月6日(予定)

第1回オリエンテーションも同時実施されます(2泊3日)

2005年春年間受入生、2004年秋短期受入生のホストファミリーも募集中です。

> 総務より

住所などの変更、必ずご連絡ください

ご自宅、勤務先の住所などに変更があった方は、同封の「会員連絡用ファックスシート」をご利用いただくか、以下へご連絡ください。

事務局総務 (TEL) 03-3357-5831 (Eメール) meibo@afs.or.jp

> 経理より

ご寄付くださる方へ

平成16年4月14日付で特定公益増進法人の認可が下りました。(平成18年4月14日まで有効)

年会員の方に郵便振替用紙を同封しています

年会員の方は、同封の郵便振替用紙で会費のお振込みをお願い致します。既にお振込みが完了している場合はご容赦ください。

自動引落しのご登録をいただいている皆様へ

次回引落しは以下のとおりです。よろしくお願ひします。

AFS日本協会奨学金(受入強化国)	6月28日(月)
終身会費	同上
ボランティア奨学金	8月5日(木)

事務局経理 (TEL) 03-3357-5832)

お問合せ・資料請求先

A 東日本事務所

〒151-0051
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-16 2F
 TEL 03-3357-5835
 FAX 03-3357-5841
 Eメール info-east@afs.or.jp

B 名古屋事務所

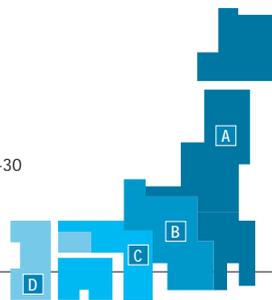
〒468-0051
 愛知県名古屋市天白区植田1-2116
 TEL 052-807-7338
 FAX 052-807-7349
 Eメール info-nagoya@afs.or.jp

C 大阪事務所

〒564-0027
 大阪府吹田市朝日町3-405
 TEL 06-6317-3955
 FAX 06-6317-3977
 Eメール info-osaka@afs.or.jp

D 福岡事務所

〒814-0006
 福岡県福岡市早良区百道2-7-30
 TEL 092-821-2005
 FAX 092-821-2012
 Eメール info-fukuoka@afs.or.jp



編集後記

生徒が来日するたびに、日本でどのような体験をし、何を得て、いつごろ、どのような実を結ぶのだろうか考えると、胸がワクワクしてきます。50周年記念の今年は、特に多種多様な果実が見られることでしょう。私たち12期生は、40年前の自分たちを思い起こし、途上国からの留学生2名に、奨学金を提供することにしました。ささやかながらも、AFSの理念実現に寄与したいという熱い思いが、奨学生や奨学生と触れ合う人々の体験を通じて伝わり、私たち自身の世界も広がっていくことを期待しています。(武藤)

アートディレクション&デザイン 山本 義明(goldfish design)